

2020-3-1
No.1050 500円

思想運動

女性—職場のこと、社会のこと 2~3面
 新型コロナウイルス流行が示すもの(五島真理為) 4面
 学費値上げ問題への取り組み(一橋大) 5面
 狙われた海、辺野古！(金治明) 6~7面
 日本の米核政策への加担(金野正晴) 8面
 フランスの年金改悪反対闘争 11面

3月7日(土)13時30分 文京シビックセンター(関連記事二面)

国際婦人デー東京集会に参加しよう！



「ユナイテッド航空は不当解雇を撤回しろ！」 1月25日に行なわれた第40回成田空港就労要求行動でシュプレヒコールをす
るユナイテッド闘争団と支援の仲間たち (写真提供=ユナイテッド闘争団)

国際婦人デー 働く女性たちの困難と戦争の危機 現実から目を背けず、闘いに起とう！

新型コロナウイルス問題が全世界に影響を及ぼしている。感染拡大が長引けば、日本国内でも製造業、観光業、サービス小売業などで倒産、失業につながり、中小零細事業者、休業補償のない非正規労働者には死活問題だ。現在、メディアは「中国発の感染拡大」がニュースの中心で、桜を見る会問題での安倍首相の公職選挙法違反、公文書管理法違反を問いたすことも、東京高検の黒川検事長定年延長のために犯した森雅子法務相の虚偽答弁への追及も影が薄い。

国会での「へらかし」「こまかし」の横行にうんざりしている一般有権者の関心も、いつ新型コロナウイルスが収束するのにか移りつつある。

一九二〇年の第三回社会主義婦人会議でクララ・ツェトキンらによって提唱された国際婦人デーは、今年で二〇年を迎える。「女性を差別・抑圧し、戦争を引き起すものは資本主義である」とはつきりと指摘し、それを打ち倒そうと働く女性の団結を訴えたクララ・ツェトキンらの主張は、残念ながら、いまもその輝きを失っていない。

資本主義の矛盾が世界中に噴出し、地域紛争、貧困、飢餓、格差、社会保障の削減、排外主義が拡がっている。しかし、それに抗し、欧州で、南北アメリカで、アジアで、やむとしない闘いが起こり続けている。その闘いの中心に女性たちがいる。

いっぽう、日本の女性たちの大部分は、組織的な政治・労働運動を作り出すことができ

ていない。それは、労働運動の弱体化によって特に若い女性たちが、派遣、請負、パート、出向、契約社員などさまざまな差別的な雇用形態のもとにおかれ、日常的なストレスばかりでなく、パワハラやセクハラなどの深刻な問題をかかえ、展望も出口も見いだせない状況にあるからだと考えよう。

しかし、女性たちが資本の攻勢によって、不安定な雇用、低い賃金、きびしい労働現場におかれているのは、資本主義の進めようとする改革を進める」と述べた。いかに本的女性たちが怒りを表せないままなのか。それは、ひと口で言えば、戦前戦後を通じて厳然とある天皇を頂点とした日本社会の封建思想・体制のもとで育ち、教育され、それを克服する闘いを女性たちが自身が積みあげてこられなかったことにあるのではない。

若い女性の働く実情

就職氷河期世代といわれる一九七〇年頃から一九八五年頃に生まれた世代は、九〇年代半ばから二〇〇〇年代半ばが、職に就く時期であった。その時期は、新自由主義に基づく構造改革、規制緩和、民営化の嵐が吹きまくり、特に二〇〇〇年前後は企業が一律に新卒採用を手控え、正規職につくことができない人は限られた。男女問わず多くが派遣や、アルバイトなど非正規職に就かざるを得なかった。

理不尽にも不安定な立場におかれた若い労働者たちは、自己責任・自助努力の言葉に翻弄される日々を過ごし、未来

に希望が持てず、自信を無く発できる人間をとうかえつた女性たちが、「家事手伝かえするほうが資本にとってより旨みがある。中途採用は、国籍も男女も年齢も問わない。効率よく働かせますはいいいのだ。政府と企業は、就職氷河期世代に中途採用者の有効活用・即戦力化を画策している。

現在、「自由で好きな時に好きなように働くことができない」として女性たちを組織し、仕事として女性たちを組織し、大企業に中途採用・経み込んでいくのがネットを活用した仕事だ。企業に属さず、個人で複数のクライアントを複数のクライアントと契約して仕事をすすめるフリランス。しかし、労働者と労働組合の切離れられていく。今後、企業の幹部ではないジョブ型正社員フリーランスとして働く女性たちが確実に増えていく。

一九七四、五年恐慌後、政府・資本は、危機乗り切りのために、いつでも首を切ることをできる低賃金の労働者を大量にうみだすことを狙った。女性たちは、非正規で格段に厳しい労働環境におかれた。一九八〇年代から九〇年代、政府・資本は女子保護を強化している。わたしたちにとって戦争は、どんな災害よりも第一に防がなければならぬ最大の災害である。いまそわしたたちは、現実を直視し、けつてあきらめることなく立ち上がるために、国際婦人デー集会に集い、闘う意思を再確認しよう。

【国際婦人デー3・7東京集会実行委員会】

よりもまず雇用平等法をの声だった。女性労働者や労働活動家たちの多くが「保護が平等か」の二者択一論に惑わされて運動の方向を見誤り、労基法改悪を阻止できなかった。そして一九八五年、男女雇用機会均等法、労働者派遣法が成立した。

政党や労働組合に大きな影響を与えた学者や弁護士たちは、女性差別の原因を性別役割分業にあるとし、その解消を一番に掲げた。性別役割分業は解消されるに越したことはないが、差別は資本主義階級社会が生み出すものであり、資本との闘いがなければならぬ。資本主義が引き起こす問題をそのままにした平等法制定運動を、政府・資本はマスコミを総動員して持ち上げた。法制定に頼る運動は、労働者の存立基盤を失わせ、運動は議会主義、市民主義の方向に走ることになった。

国際婦人デー集会に参加しよう

安倍首相は、戦争政策を推進するために、任期中の憲法改悪を至上命題としている。衆参両院の議席は「改憲派」が圧倒的多数だ。しかし、自民党はそれでも安心できず、国民投票での改憲有効票獲得を確実にするため、非正規職で生活苦を抱える女性や、憲法改憲反対派、リベラル派などをターゲットにした左にウイングをひろげたアヒールを強化している。わたしたちにとって戦争は、どんな災害よりも第一に防がなければならぬ最大の災害である。いまそわしたたちは、現実を直視し、けつてあきらめることなく立ち上がるために、国際婦人デー集会に集い、闘う意思を再確認しよう。

【国際婦人デー3・7東京集会実行委員会】

本企業は、従来の長期雇用慣行を投げ捨て、正社員の範囲を限定し、中途採用やジョブ型雇用を拡大することによって、そのうちの人員費コスト削減と労働者間競争の強化を狙っている。非正規雇用の拡大と並行して正社員の二層化が進行している。

ジョブ型つまり専門スキルを活かして勤務や勤務場所を絞って働くことは、アメリカでは熟練した専門職として条件も保障されているが、日本では、非熟練の非正規の若者が多い。地域最賃に近い安い賃金を企業の都合のいいように働かせられている。これまでこのとき政府資本の策動を助けたのが学者や弁護士「女性」の権利拡大のためには保護

を必要とする人間をとうかえつた女性たちが、「家事手伝かえするほうが資本にとってより旨みがある。中途採用は、国籍も男女も年齢も問わない。効率よく働かせますはいいいのだ。政府と企業は、就職氷河期世代に中途採用者の有効活用・即戦力化を画策している。

現在、「自由で好きな時に好きなように働くことができない」として女性たちを組織し、仕事として女性たちを組織し、大企業に中途採用・経み込んでいくのがネットを活用した仕事だ。企業に属さず、個人で複数のクライアントを複数のクライアントと契約して仕事をすすめるフリランス。しかし、労働者と労働組合の切離れられていく。今後、企業の幹部ではないジョブ型正社員フリーランスとして働く女性たちが確実に増えていく。

一九七四、五年恐慌後、政府・資本は、危機乗り切りのために、いつでも首を切ることをできる低賃金の労働者を大量にうみだすことを狙った。女性たちは、非正規で格段に厳しい労働環境におかれた。一九八〇年代から九〇年代、政府・資本は女子保護を強化している。わたしたちにとって戦争は、どんな災害よりも第一に防がなければならぬ最大の災害である。いまそわしたたちは、現実を直視し、けつてあきらめることなく立ち上がるために、国際婦人デー集会に集い、闘う意思を再確認しよう。

【国際婦人デー3・7東京集会実行委員会】

を必要とする人間をとうかえつた女性たちが、「家事手伝かえするほうが資本にとってより旨みがある。中途採用は、国籍も男女も年齢も問わない。効率よく働かせますはいいいのだ。政府と企業は、就職氷河期世代に中途採用者の有効活用・即戦力化を画策している。

現在、「自由で好きな時に好きなように働くことができない」として女性たちを組織し、仕事として女性たちを組織し、大企業に中途採用・経み込んでいくのがネットを活用した仕事だ。企業に属さず、個人で複数のクライアントを複数のクライアントと契約して仕事をすすめるフリランス。しかし、労働者と労働組合の切離れられていく。今後、企業の幹部ではないジョブ型正社員フリーランスとして働く女性たちが確実に増えていく。

一九七四、五年恐慌後、政府・資本は、危機乗り切りのために、いつでも首を切ることをできる低賃金の労働者を大量にうみだすことを狙った。女性たちは、非正規で格段に厳しい労働環境におかれた。一九八〇年代から九〇年代、政府・資本は女子保護を強化している。わたしたちにとって戦争は、どんな災害よりも第一に防がなければならぬ最大の災害である。いまそわしたたちは、現実を直視し、けつてあきらめることなく立ち上がるために、国際婦人デー集会に集い、闘う意思を再確認しよう。

【国際婦人デー3・7東京集会実行委員会】

を必要とする人間をとうかえつた女性たちが、「家事手伝かえするほうが資本にとってより旨みがある。中途採用は、国籍も男女も年齢も問わない。効率よく働かせますはいいいのだ。政府と企業は、就職氷河期世代に中途採用者の有効活用・即戦力化を画策している。

現在、「自由で好きな時に好きなように働くことができない」として女性たちを組織し、仕事として女性たちを組織し、大企業に中途採用・経み込んでいくのがネットを活用した仕事だ。企業に属さず、個人で複数のクライアントを複数のクライアントと契約して仕事をすすめるフリランス。しかし、労働者と労働組合の切離れられていく。今後、企業の幹部ではないジョブ型正社員フリーランスとして働く女性たちが確実に増えていく。

一九七四、五年恐慌後、政府・資本は、危機乗り切りのために、いつでも首を切ることをできる低賃金の労働者を大量にうみだすことを狙った。女性たちは、非正規で格段に厳しい労働環境におかれた。一九八〇年代から九〇年代、政府・資本は女子保護を強化している。わたしたちにとって戦争は、どんな災害よりも第一に防がなければならぬ最大の災害である。いまそわしたたちは、現実を直視し、けつてあきらめることなく立ち上がるために、国際婦人デー集会に集い、闘う意思を再確認しよう。

【国際婦人デー3・7東京集会実行委員会】